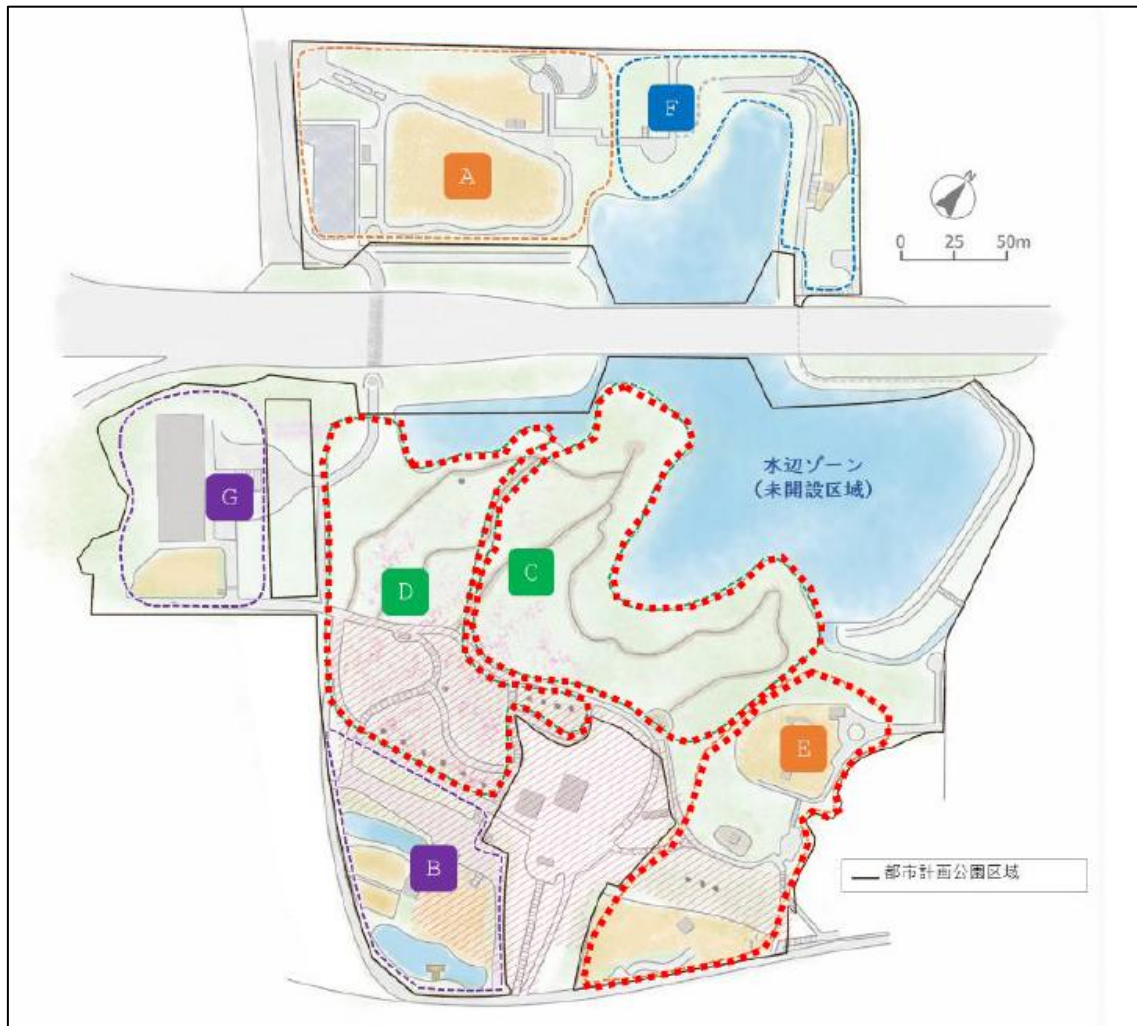


紫金山公園植生調査結果



紫金山公園の植生調査範囲（C～E の範囲）

調査手法

下図で区分された群落内を令和 7 年（2026 年）10 月 6 日～8 日、12 月 24 日に踏査して、代表的な調査地点を選び、コドラート（方形区画）を（S1～S10 の 10 箇所）設定し、植物社会学的方法で植生調査を実施した。コドラートの面積はそれぞれの群落高を考慮し、10m×10m～25 m×20 m のサイズとした。なお、調査区画の E エリアでは、昆虫の森づくりを想定していることから、林縁部の 1 箇所を調査地点として選んだ。

調査項目は、階層区分（高木層・亜高木層・低木層・草本層）、各階層の高さ、各階層の植被率、階層別の植物種、出現種の被度、群度、環境条件（位置、海拔高、斜面方位、傾斜等）とした。

調査結果

作成した現存植生図を図 3-1 に示し、A2 サイズの現存植生図を別添する。また、群落組成票及び群落組成調査地点（10 箇所（S1～S10））の座標は末尾の資料編に示す。

紫金山公園の C～E エリアでの高木群落の植生は、コバノミツバツツジ-アカマツ群集、アベマキ-コナラ群集コバノミツバツツジ下位単位、アベマキ-コナラ群集アラカシ下位単位、クスノキ群落、アラカシ萌芽林、先駆性樹林の 6 区分された。その他の群落等は、植栽樹林、ネザサ群落、草地、道路、公園・グラウンドが確認された。

高木群落別（人為的な植生を除く）の特徴は表 3-1(1)～(2)に示す。



(1) 高木群落別（人為的な植生を除く）の特徴

1 コバノミツバツツジ-アカマツ群集 (S-5, S-6)

アカマツが優占する針葉樹林で下層に。一般的にアカマツは日当たりを好む陽樹であり、林床はアカマツの落葉が堆積し、酸性・乾燥化しやすい特徴がある。アカマツ群落は里山環境の代表的な植生の一つ。調査地付近では、アカマツは松枯れ個体が見られるなどやや衰退傾向がみられ、人為の影響もありタラノキやアカメガシワなど林縁の要素を多分に含んだ群落となっている。低木層にはコバノミツバツツジやモチツツジなどの陽性植物が多く、草本層にはネザサが多い。放置されると広葉樹の侵入によって遷移が進むと考えられる。



●アカマツ群落の様子

2a アベマキ-コナラ群集コバノミツバツツジ下位単位 (S-2, S-9)

高木層はコナラ、アベマキなどの落葉樹が優占し、亜高木にはザイフリボクやカスミザクラがみられ、いわゆる里山環境の様相を呈す。一方、低木層にはコバノミツバツツジやモチツツジといったツツジ類が特徴的に多く見られる。これらからアベマキ-コナラ群集コバノミツバツツジ下位単位として区分した。

ツツジ類は痩せ地に生育することが可能であるが、この特徴は群落が比較的乾燥した尾根筋や急斜面などの立地に成立していることを示す。現地では人為の影響も大きいと考えられるが、植生調査地点は平坦な尾根部と急斜面の2か所に位置し、本来の立地に近い条件をそろえている。草本層はネザサが広範に優占している。林内は比較的明るい。



●アベマキ-コナラ群集

コバノミツバツツジ下位単位の様子

2b アベマキ-コナラ群集アラカシ下位単位 (S-1, S-10)

高木層はコナラ、アベマキなど落葉樹が優占し、いわゆる里山環境の様相を呈す。下層（亜高木層、低木層）にはアラカシ、モチノキ、カナメモチなどの常緑樹が多数生育する一方で、ツツジ類は無い、ほとんど無い。これらからアベマキ-コナラ群集アラカシ下位単位として区分した。

下層に常緑樹が多いことから、高木層のコナラ、アベマキが枯死すると将来的に常緑広葉樹林へ遷移していく可能性が高いことを示唆している。

林内は低木層の被圧により比較的暗く、草本層にはネザサやベニシダなどが確認される。



●アベマキ-コナラ群集アラカシ下位単位の様子

(2) 高木群落別（人為的な植生を除く）の特徴

3 クスノキ群落 (S-3, S-4)

クスノキやモチノキ、アラカシなどの常緑広葉樹が優占する群落。クスノキは成長が早く、鳥によって種子が散布されやすいため、人為的な影響を受けた場所で二次的に成立した可能性が高い。群落内には多様な常緑樹(クスノキ、モチノキ、アラカシ、クロガネモチなど)の稚樹が確認されており、比較的安定した常緑広葉樹林として発達している。林内は暗く、草本層の被度は比較的低い。また、耐陰性の高いイヌマキ、ヤブラン、マンリョウ、ベニシダ、コクランといった種が特徴的にみられる。



●クスノキ群落の様子

4 アラカシ萌芽林 (S-8)

アラカシを主体とする群落高 10m 程度の常緑広葉樹林。アラカシは伐採しても切り株から萌芽（ぼうが）して再生する力が強い。また、周辺にアラカシの高木が散見され、種子供給があり、比較的暗い(北向き斜面など)立地条件も合わさって成立していると考えられる。調査範囲内では林縁の一部に小面積で確認された。アラカシのほか、イヌビワ、カナメモチといった耐陰性の高い種がみられる一方、先駆性樹林同様、クズ、ハゼノキといった林縁に生育する植物が出現する。



●アラカシ萌芽林の様子

5 先駆性樹林 (S-7)

ヤマハゼやハゼノキといった先駆植物が優占する低木群落。新しい開けた土地や攪乱（かくらん）地などにいち早く侵入し成長するパイオニア種で構成されている。クズやナツフジ、ネザサといったツル植物や草本が高い被度を示している。



●先駆性樹林の様子

生育密度（立木密度）が最も高いのはエリア C で、0.072 本/m²（724.3 本/ha）であった。次いで、エリア D で 0.047 本/m²（471.2 本/ha）であった。最も少ないのはエリア E で 0.025 本/m²（249.2 本/ha）であった。生育密度の最小と最大で、約 3 倍の差がみられた。

エリア別の生育密度（立木密度）

エリ ア	面積 (m ²)	樹木本数 (本)	平均DBH (cm)	平均幹周 (cm)	立木密度 (本/m ²)	参考：立木密度 (本/ha)
エリ ア C	14,953.2	1,083	24.6	77.1	0.072	724.3
エリ ア D	13,073.0	616	26.6	83.5	0.047	471.2
エリ ア E	11,636.6	290	28.4	89.2	0.025	249.2
計	39,662.8	1,989.0	25.8	80.9	0.050	501.5